以形狀爲名

衣笠內大臣

〔新撰六帖五戀〕ものへだてたる
むしたるゝあづまをとめがすきかげに名殘おほくて行別ぬる

正三位季能卿

〔夫木和歌抄九夏草〕
草ふかみむしのたれぎぬ結びあげてとほりわづらふ夏の旅人

〔增補下學集下器財〕二平笠ヒラカサ

〔明月記〕建久七年六月十四日、於北大路棧敷見物、入道殿同御座、今年梶井宮內力者有別願渡之云云、以金銀錦繡施風流、皆悉著指貫平笠、

〔古今著聞集十一蹴鞠〕或時侍の大盤の上に、沓をはきながらのぼりて、小鞠をけられけるに、大盤のうへに沓のあたるおとを人にきかせざりけり、〇中略法師一人有けるをば、かたよりやがて頭をふみでとをられけり、かくする事一兩度、をりてまりをとりて、いかゞ覺ゆるととはれければ、〇中略法師は、又平笠を著たる程の心ちにて候つるぞと申ける、

〔好色二代男四〕情懸けしは春日野の釜
女郎十八人、大鳥居まで忍び駕籠、それより木地の平笠に紙緒を附けて、上著もつぼをり皆竹杖も玄やれて、〇下略

〔奥羽永慶軍記二十五〕太閤洛陽出陣名護屋御動座事
中ニモ伊達正宗ハ、勝レテ見ヘニケル、〇中略旗持弓鐵炮長柄ノ者ドモ、裝束ハ〇中略笠ハ金ノトガリ笠、長サ一尺八寸、廻リ三尺ニシテ著セタリケリ、

〔貞德文集上〕乍無心之儀、摺箔小袖、〇中略尖笠、躍衆之裝束可被恩借候、

〔武邊噺聞書七〕一萩田主馬咄に、謙信は小男にて、左の足に氣腫有て足を被引、大方具足を不著、黑き木綿胴服にて、鐵の少キ車笠を著、一代さいはいも團扇も一兩度ならでは不取、〇下略